

10月号 子どもの才能の扉をひらくモンテッソーリ教育

本日のテーマ…『2歳児のイヤイヤ期の乗り越え方』

初めての子育ては、分からない事ばかりです。我が子が大泣きをして手が付けられない時には、次の3つの原因を疑ってみてください。

①「自分でやりたかった」大泣き

特に運動の敏感期にある子どもは、何でも自分でやりたがります。心に余裕を持って見守り、援助が必要な時は「手伝ってもいいですか？」と一声かけるようにすると良いでしょう。

②「秩序」が乱れた大泣き

子どもは、世の中の仕組みを画像のように一瞬にして記憶し吸収してしまうので、場所や順番が変わってしまうと混乱し、不愉快になってしまいます。毎日同じ順序・習慣・場所…可能な限り尊重してあげると良いでしょう。

③「イヤイヤ期」からくる大泣き

まずは「イヤイヤの本当の理由は何かな」と理解しましょう。感情的にならず、話を聞き、受け入れ、「そうだね、○○したかったんだよね」と気持ちに寄り添うことも必要です。



★2歳児との最高の付き合い方は「選択」させること

一番の解決策は「二者択一」で、選択肢を与えることです。「この靴とこっちの靴、どっちがいい？」と聞けば、自分の言い分が通った、と感じるからです。日常の何気ない場面でも、子どもに選択させること、選ばせることで、子どもは自分の考えが尊重されていると感じることができます。

★「イヤ」も立派な意思表示

どこかのタイミングで「イヤ」ということを口に出すことを発見します。この時期の「イヤ」は本能的で、あまり強い意味を持ちません。その感情に流されて、こちらがイライラしてしまうのではなく、心に余裕を持って落ち着いて対処すると良いでしょう。